

會報



第一一第五号

山男と常識

常識といふものがある。私はこれを大別して二つに分ける。一つを一言葉は少し度だが専門的常識、他を一般的常識とす。登山家は登山家であつて人より山に関する限り彼より余計に専門的常識があつていゝ筈である。銀行家は銀行家で銀行に関する専門的常識が必要だと思ふ。醫者は然り、八百屋然り、桶屋も亦然りである。同様に一般的常識の方はいゝやしくも行為能力あり、意思能力ある人であれば、教養の程度によつて違ふかも知れぬが、誰でもが持つべき筈の常識である。

よく世間で「常識のよい人間は困る」といふ。此の場合一般と専門的の両方を含んだ意味の常識であると思ふ。従つて普通の人で、即ち行為、意思の能力あり、職業が銀行に関する事であり、趣味が登山にある人であれば、三重の常識が必要にあつて来る。此の裡一つでも欠けて居ると世の

中の人はある場合に其の人を「間抜け」とか「阿呆」とか呼ぶ。俺はそんなかに何重も常識の力に會ふ覚えはないといふ人もあるかも知れない。そんな事をいふ人は即ち間抜けとか阿呆とか云はれる部類に属する事になりぬし。

ある山岳會の幹事で某氏の腰巾着と云はれる氏が此の間私の著書を御丁寧に六号活字で一頁以上も賞やして批評して呉れた。自分では日本一の山岳會の機関雜誌で批判される程価値ありものでないと思つて居たのであるから、その批評が私にとつて好都合でも悪都合でも身に余る光栄だとは思つて居る。兎も角有難いと感じてゐるが、多少その次に迷惑の二字を付け足し度い様にも考へられぬ事はない。私自身としてはその少ふからず間違つた批評の爲に、本が売れなくなりうが賣れやうが一向差支へないけれども、本屋にとっては売れた方がいゝと思ふ。少くとも初版だけは売つてしまひ度いだらう。誤つた批評といふものは著者の名譽乃至は人格を毀損する許りではない。本屋にしても随分痛手を蒙る事であらう。

(いよ／＼個別的排撃は来月に譲る)

(熊)

良書紹介

誰でもそうですが日常の生活で自分自身の注意を喚起する事柄は大抵各人に決つて居り様に思はれます。

例へば或人は駅の中に掲げてある沢山のポスター中の「スキー」に關したポスターに注意を喚起する人もありますし又別お人は温泉場のポスターの又見て歩いて居る人もあります。

そんな人は別段スキーの「ポスター」が珍らしからずではふいのです。毎度ある位見て居ても遂に知らずに立ち止まつて見たりします。又別に食慾の旺盛さお方は例へば胃袋の中が一杯にふつて消化不良の状態にふつて居ても古城屋の力餅の前を通ると知らず／＼（？）店の中に這入つて又つめ込みます。そして何處かの峠のすぐ下で力盡き骨折れて峠の茶屋に宿つたりします。病と云ふものは恐ろしいものです。

折でです。こんな長い前置きをするのも結局は僕等の間に多年不治の難病として自他共に苦しんで居る例の難病を治したい／＼と云ふ普賢の心掛けは今日突然會社で僕の注意を異状に喚起したものがあつたかりです。

それは誠文堂拾錢文庫中の一冊です。題して「病氣によく効く温泉案内」と云ひます。私の目は矢の如くに目次の中を走りました。俄然皆さん喜んで下さい。

(一) 腦病の温泉療養價值

(二) 腦病の特効温泉案内
の二章です。僕は此の二章を諸君の前に提供して皆さんの苦勞の種を救ひ度いと思ひます。是から其の原文を二章そのまゝ掲載して皆さんの治療の参考としたいと思ひます。

第一章 腦病の温泉療養價值

腦の病と稱するものの中には神経衰弱、ヒステリー及び初期の精神障害の三種あるが世人が一般に腦病と稱するのは専ら初期の精神障害を指して居る（此の点皆さんの第四期位の精神障害に相當して居りやうです）

精神障碍の中には微毒の結果から来る麻痺狂の如きものもありけれど遺傳關係に基づくもの最も多く（此の場合に相當して居たら先ず治療はありめらる必要がある）、神経衰弱やヒステリーが原因とふつて此の病氣を惹起する場合もある。何れにしても本病の治療上には適度の運動と滋養の攝取とへ力餅を創れり近食小事に非ず）絶対の安靜、安眠を必要とするが微温湯の長時間の入浴は最も顯著な効果がある（嘗つて野沢の酒屋で渡辺君が三時間餘湯に浸つて鼻血を流したるが如きは彼既に此の治療法に氣付き居たるが如しと云ふも彼は熱湯と微温湯の區別に氣付かざりしかば兎事に鼻血を流して却つて腦病を増進せり其の証據は翌

朝一人の脳病患者を勧誘して親友の愚生を蒲團蒸しにして三十分餘も生死の間を漂浪せしめたりが如し。最初長時間の入浴は困難であるが慣れるに従つて二十分三十分と時間を伸ばしてゆき時々冷水を頭からかぶれば調ゆる。湯氣に上る。心配もおく。一時間位は入浴し得られる様にある。此の点漢辺君の三時間の入浴は物凄きものなり。

醫學上の學術語では是れは一持続的療法」と称し。精神病院等では與舊した患者に二十四時間も續け疎に行ふ事敢て珍しくあひ。精神を安靜に導くには最も効果ある方法とせられる。

本稿は第一章が意外に長かつたので是位に止め次号に於て何處の温泉が脳病に効くかを紹介して見るつもりであります。

(裡)

胃は心

僕としては随分氣を付けたつもりあんだがどうとうこわした胃と腸と。腸のよく入る下宿の二階に天井を見詰めて胃袋はどっちが裏か表かと考へて、今度治つたらいいものを少し食べようと思つた。もう食べまいふんて考へあひのは胃は生命であらかりだ。といつて鯛焼あんか思つても見た事あひのは胃が人格であるからだ。僕に取つて胃は心である。

その顔貌以上に頑健な身体を持ち乍ら消化系統

の崩潰を招く事で凡そその人品人類の床しきの程が分るとマン公は説くけれども、結論は正しくてもその考へ方が間違つてゐる。

第一に僕達の仲間の顔貌よりも頑健な胃腸が存在すると考へるのが抑々の間違ひである。

第二に鬼の涙といふ事があるが、それは鬼さへ泣く程の悲しみの意味ではなくて、鬼おればこそ泣く心のやさしさである。鬼のかくらん、ぢやあかつた近藤のかくらんはわくらんの方が近藤に罹つたといふ近藤の武勇を謳ふ物語でかくて、まるで人の様におとふしくわくらんに つた彼の床しさを意味する。

僕達の仲間で普通の貌を持つへそれが怪しい。程の者は己が顔貌以上に頑健な胃腸の存在を否定するであらう。わくらんの近藤を介抱したへそれが又甚だ怪しい。者はその間だけ如何に彼がおとふしかつたか、人らしかつたかを思ひ起すであらう。僕は泣きどころを持つ鼻慶が好きだ。背中に落ちた木の葉の跡だけ龍の血を受けあかつた不死身のジークフリートが好きだ。其処に彼等のほんとの心が出らからだ。

山男にだつてやさしい心はあらう。いゝや山男おればこそ。たゞ不幸にしてその妙なる心を表現すべく余りに彼の鼻は、服は、口は、……だか、ちそのおよやわち胃が痛々しい腸が不束な脳がみん

ふこルが出て来る。盲腸周囲炎だつてかくりんだつてそうやたらにかゝれるものぢやない。おれるものおつて見る。

ペン公の手紙に依り近藤の説にサインとゾレンが一致しないからインテリは駄目だといふひとくたり。ところが僕達の消氷系統では思想と行動とが鮮かに一致してゐる。だから僕達は幸福なのだ。尤もそれがあんまり鮮か過ぎてときどき痛みはするけれど、インテリを嫌ふプロにも辛らい悩みはある事で、それよりも治つたときに食べて見て、何ともないときのうれしさは、何を食べても憂ひぬ奴には分らない所しさにこそ。何でもない冬枯れの雑木林や野や丘に喜ぶのどかふ心にこそ。

(バツタ)

熊さんと金剛山へ行つた時です夜が明けない中に家を出るといふことは此の数年來例のふいこと、で流石に朝起きは気持ちよい、これから毎日朝起きをしようと思つたんだがさて実行にふるととんと蛇目あんです。明日こそは明日こそはにて暮れにけりし、それ以来未だ一度も早く起きたことがないばかりお却つて遅くふり傾向があります本當に困つたものです。

それは鬼に角愈々山にかゝる……関東の方に金剛山なんか山の中ではないといふかも知れません。

せんが関西に於ては最も山らしい山として最も峻しい山とされてゐます。其の点は大目に見て下さい。中學時代の山行きが思ひ出されてなりません何しろ熊さんとは山へ行く始めからの山友達ふんですからお併し中頃はすつかりかけ違つて一緒に行く機会も余りありませんでした。何しろ熊さんは日本に於ける有数の登山家にあつた。僕は僕で誰やらの云はれたやうに理論派の登山家にあつてしまつたのです。所が今度は昔にかへつて一緒に山へ行くことにふつたのです。昔お思ひ出されるも後者謂ふ事ではふいでせう無いとでも云ふのでせうおセンチメンタルな気持ちで歩いたものです。然しお恥かしい次第です。お気持ちとは反対に足の方はさつぱりです。葛城を越して金剛にかゝる頃は二人共足は文字通り棒です。然し昔取つた杵柄足に杵柄もおかしいですが鬼に角頑張つて登り切りました。愈々歸途にいた訳です。お城城文明の進んだ御代に生れた有難う金剛山下の千早から自動車が出るやうです。而も一日に又一回五時に登車するやうで時間も余りありません。自動車も一台しかふいせうで満員にでもふれば四里の道をてくらふければおりません。此の上四里歩くのも叶ひませんが家では腹を空かして待つてます。どうしても其の自動車をつかまへなければならぬとて足の痛さなどは何處へやら一氣に駆け下りました。所が此處の集合は切

符を売るでもふく……勿論一台では其の必要もふいでせうが……順番がある訳でもありません自動車へ先に乗り込んだ者が勝ちに於る訳で先着でも其の權利を主張する訳には行かないのだせうです。随分無茶だと思ひました。が仕方ありません。山の上では大勢が自動車を當てにしてゐるのを耳にしてゐます。から自動車が来る迄に其の人達が来たらし事で。随分氣をもみました。然しよい。按配に自動車には乗れませんでした。山の上の人達は間に合はふかつたので。す所が同車したお婆さんが振つてゐます。自動車が。停車して暫らくすると石崖の所へ来ました。すると。お婆さんが運転手に一寸止めてくれといひます。自動車は止まりました。するとお婆さんは石崖の上の方へ向つて。今にいます。よつてに。あー。と。大聲で呼びました。崖の上から。よろしう。申しと。くんふは。れや。れ。それ。から。二言三言挨拶が交はさ。れて。かり。自動車は動き出しました。実に。悠揚。おもので。す。其のお婆さん。また。同車のおかみさんと。色々。話。して。ゐ。ました。が。有難い。世の中に。ふつた。もの。や。わ。し。ら。昔。大阪へ。出る。時。には。夜。明け。まで。に。富。田。林。まで。行。か。ね。ば。其。の。日。の中。に。故。へ。れ。あ。つ。た。で。此。の。辺。を。通。る。の。は。何。時。も。二。時。か。三。時。で。子。供。を。背。に。負。つ。て。一。人。歩。いた。も。ん。や。然。し。神。様。を。信。じて。ゐ。る。故。ち。つ。と。も。恐。ろ。し。う。は。ふ。か。つ。た。が。の。し。其。の。話。の中。の。子。供。は。今。世。三。だ。そ。う。で。す。大。阪。を。一。寸。進。め。ると。くんふ。暢。氣。ふ。

土地もあります。

(トンボ)

つひ日頃の不性から會報への通信も會員の人達への便りもおろそかにおつて了つた、自分でも會報へ出したい氣がしふが、日當の忙しさが家へ帰つてから筆を持つ事を面倒がらせる、然し丁度その機會が僕の病氣と一緒に来た風邪を引いて休んで居た時松木兄からおはがきを受取つた、今度こそと思つてペンを取つた訳だ、だが他の人達のやうに僕は最近山へ余り行かふ、此の欄へ出し得るやうな一つの話題すらふいと云つて了談をする。と云ふか。云はれそうだし。それは面談に譲つた方が。實物證據を残す。恐。も。あ。い。し。そ。の。方。が。好。ま。う。だ。實。際。會。員。の中。に。も。結。婚。し。た。人。或。は。正。に。結。婚。せ。ん。と。して。居。る。人。が。居。る。だ。ら。う。が。そ。の。際。相。互。に。成。り。べ。く。正。確。に。相。手。の。人。格。調。査。を。行。ふ、その場合。屢々。そんな。實際。証。據。が。物。を。云。ひ。易。い、従。つ。て。下。手。な。論。文。で。は。ふ。い。が。未。婚。者。は。徒。に。物。を。書。か。ぬ。事。と。云。ふ。結。論。が。出。る。

だから了談書くおがれた、と云つて僕を卑怯と云ふおがれ、又は。實。は。親。の。遺。言。ふ。ん。だ。か。ら。お。お。お。ん。て。興。太。で。此。の。年。末。の。挨拶。に。我。々。は。い。

(ポツチン)

秋の午後の日を愛でて四五人の兵士があぜに腰

うち下して煙草おど吸ふ者もある。後方に盛んふ大砲小銃の音を聞きおがらA「馬鹿共が一銭六厘の空砲をいゝ氣におつて打つてやがる。……このいゝ景色も見おいでさし、B「もう退却の始まる頃だらう。うつかりすると敵の中に這入つちまふぞし、C「なめに、まださ、退却の始まる頃にはあそここの縣道を野砲が通るよ。びく／＼するふいし左の小道から自轉車がカタ／＼と出て来た。見れば敵の將校だ。一同無言のまゝ、目と目を見合はせ次の瞬間には猫の目を危く脱れた鼠よりしくの態でガヤ／＼と後の猫の獲んだ中にもぐつて居た。敵の部隊が通るのがちら／＼見える。運よく見付からずに済むことを天に祈りおがらちつとして居る。暫くは無事だ。こつそりとDがCに注意をした。D「おい、お前の尻が見えろぞし、C「つかうかしと云つて少し動いたと同時に「敵だ／＼捕虜／＼しといふ声がグワンと頭の上に落ちて来た。剣を振りかぶった將校を見上げおがらAが言つた「どうも御苦勞さんですしと。將校は剣を持つたまゝ一寸気後にした様子で「おいだめだ／＼後へ下つてくれ／＼、監視兵三名こゝへ立てしとどふた。四五人の捕虜はいたづら子が親に叱られた時の様か氣まづさを感じてす／＼と元來に道を戻つて行つた。家の陰に見えふくふるまで監視兵が田の中に立つて見守つた居た。家の裏で四

五人は寒さにふるへおがら垣の破れから敵の退却を見て居た。そしてやつとそこを這ひ出したのは秋の日も暮れて銀の様お月が空に光を放つ頃であつた。又が秋季演習中第一の傑作だ
(冠木ズウズウ)

記 録

自十一月一日至十一月三十日

十一月二日——三日

白馬岳、村尾金二、近藤

大雪溪を登り葱平の見える辺まで行く、

全日 神津牧場荒船山 中川孫一

二日は晴れ水が溜り様ふ豪雨、三日は秋空(片の雲影ふし、

全日 中津川 奥野綱重、松本謙三

両神山登山の処身体の具合悪しき者出で中双里にて引返す。紅葉絶佳あり。

十一月九日 五日市から日向和国へ、中川孫一(追加、

九月廿四日 大丹波川廻行川苔山へ、中川孫一

十月十七日 丹沢山 中川孫一

消 息

冠木啓藏 十一月三十日除隊近日中上京の予定

福島縣喜多方町

(中川孫一の寄稿は紙面の都合上来月に譲る)